平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3770200412		
法人名	社会福祉法人　厚仁会		
事業所名	グループホームさぬき富士		
所在地	香川県丸亀市飯野町東分2701番地1　（電話）0877－21－1000		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町受理日	平成23年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3770200412-00&PrefCd=37&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成25年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

讃岐富士のふもとに建ち、日中は花や緑に囲まれ、夜は綺麗な夜景が見える落ち着いた環境の中で生活している。ホームの理念にあるように「笑顔・やさしさ・思いやり」を職員全員が持ち、利用者の方と楽しい一日を、一緒に過ごせるよう心がけている。家族の方と一緒に、利用者の方が生きがいを持って自立した生活を送れるよう、管理者・職員みんなで話し合って支援している。また、利用者一人ひとりの生活のリズムに合わせ、無理のない、安心安全な生活ができ、また、日常の健康管理や事故・緊急時に対応できるよう、主治医・看護師・協力病院との連携をとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

理念は法人全体で共有しているが、その理念を職員各人がしっかりと頭に入れ、どのようにしたら理念を実践できるかを考えてケアに当たっているため、小さな努力の積み重ねが利用者とのいい関係作りに実を結んでいる。自宅から離れると家族との関係継続が難しいが、訪問しやすい環境作りや職員から家族への声かけの結果、各種行事や運営推進会議への出席率も高い。給食は給食センターで一括して作り、運搬してきているが、主食はグループホーム内のキッチンで炊き、食器洗浄もグループホームで行うなど、残存能力を活かす機会づくりへの努力が見られる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「笑顔・やさしさ・思いやり」を管理者・職員全員が共有して、実践に取り組んでいる。	理念は法人全体で統一したものだが、その実践のための具体的方法は事業所独自で考えている。毎朝、法人での朝礼時に思いやりを持った行動の具体例を発表し、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々が、積極的に来てくださり、交流を深めている。	地域の福祉ボランティアが定期的に訪れ、誕生会・散歩・おやつ作りなどの交流をしている。また、職員が地域の溝掃除に参加したり、希望時には地域で介護保険制度の説明会を開催することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会に参加いただいている地域の方々や、ボランティアの方々に、利用者の方と楽しく触れ合っていただき、認知症の理解を深めていただけるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進協議会で報告し話しあったことを、すぐに職員全体に周知し、具体的に話し合い、サービスの向上に活かしている。	家族からテーマを絞った会議開催の希望があり、最近では防災に関しての議題が中心となっている。地域へ協力を呼びかけ、繋がりを強めており、利用者の家族も多く出席している。	利用者の家族の出席率は高いが、運営改善に向けた話し合いが少なく、事業所の問題点の改善や家族の要望を活かす機会になりにくい。今後、サービス向上に活かす取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	丸亀市健康福祉部高齢者支援課の担当職員の方々と、2ヶ月に1回、グループホーム連絡会でサービス向上に取り組み、協力関係を築いている。	丸亀市主催の連絡会での意見交換や事業所見学に参加して、他の事業所の実情や工夫点を参考にしている。事業所側から市の担当者へ出向くことは多くはないが、何かあれば相談できる関係ではある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が、身体拘束について正しく理解し、職員全体で話し合う時間を定期的に設け、取り組んでいる。	現在、転倒・転落・異食のある利用者2名に対し、家族との十分な話し合いの上、生命保護の観点からやむを得ず拘束を実施しているが、「拘束委員会」で現状について話し合い、常に改善への努力は見られる。	職員は、拘束がいけないということは十分に理解し、それでもなお必要なときにのみ拘束を行っている。前回にも評価の課題にあがり、改善点も見られるが、再度、目標に掲げ、拘束を解除するための取り組みを継続することが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ホームで虐待についての勉強会を開催し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個人での研修はしているが、活用したことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には、利用者と家族の方と一緒に書類に目を通し、一つ一つ疑問点について分かりやすく答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方の面会時、行事に参加してくださった時、運営推進協議会などで、直接意見を聞かせていただき、市の職員・管理者・職員が問題について検討し、運営に反映させている。	面会が多く家族とは顔が見える関係であり、意見はその都度くみ取るようにしている。意見箱を設置しているが、直接職員に意見が言える関係である。要望があれば職員間で意見を共有し、改善に向けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週1回のスケジュール会で、職員の意見や提案を聞き、反映している。	職員の押すタイムカードは管理者のいる事務所内にあり、いつでも相談できる環境にある。また、各事業所であがった課題は代表者を通して、法人全体で話し合う機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や各職員を把握し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や各職員を把握し、可能な限り、研修の参加機会を確保し、働きながらトレーニングしていくことをすすめている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	丸亀市健康福祉部高齢者支援課主導によるネットワーク作りにも、積極的に参加し、勉強会や事業所訪問など、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の話をよく聞くこと、また関係者から詳しい情報を得ること、家族の方に協力していただくこと、困ったり不安なことは解決するまでていねいに何度も話し合い、理解していただくことを心がけて関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、家族の方に詳しく聞き、その後も面会時などを利用して、職員から声をかけるようにしている。また調査票には詳しく記入していただき、家族の方の要望等を把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の方が安心して生活していただけるにはどのようなサービスが必要か、職員全員で話し合う。どんな時にも要望に耳を傾けて、より良いサービスを目指すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方々と寄り添い、一緒の生活を過ごす中で喜怒哀楽を共にし、人生の先輩としてたくさんの知恵を教わり、お互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に気軽に行事に参加いただき、常に職員とコミュニケーションできる雰囲気を作り、一緒に本人を支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・知人などが訪問しやすい雰囲気作りをしたり、昔の写真を貼り、楽しかった話などを聞かせていただいたりしている。	面会時には居室やサンルームを使用し、ゆっくりと話ができる環境を作っている。職員が撮った利用者の地元のビデオを上映したことがあるが、環境が変わっていて利用者の反応は薄かった。帰省の希望等、利用者から家族に伝えにくいときには、職員が橋渡しをして、関係が途絶えないように支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	立ち上がり時、一緒に声かけをしていただいたり、食事や起床の誘いをしていただいたり、歌に合わせて手拍子をしていただいたり、関わりあい支えあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居された利用者・家族の方に面会に出かけたり、電話をして、現在の状態やその後の様子を伺ったり、相談に乗るなどフォローアップに努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状態を把握し、本人の希望を取り入れながら支援するように努めている。意思表示の困難な利用者には、職員全員でよりよいケアを話し合い、検討して支援できるように努めている。	高齢化により、関わる家族が本人の孫である場合も多い。利用者の生活歴がわかりにくい状態だが、写真や思い出の品物を持ってきてもらい、少しでも利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりとしっかり向き合い、深く関わることで生活歴や暮らし方、サービス利用の経過を知り、今後のサービスに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりと寄り添い生活していく中で、一日の過ごし方や心身状態、能力を見極めることができるよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時、本人・家族・看護師・医師等、関係者と連携をとり、利用者に安心して過ごしていただけるよう、話し合いをしながら作成している。	介護計画作成前には家族から個々に聞き取りをし、現状の確認をしてもらっている。また、事業所全体で話し合いも行う。プラン変更時には必ず1週間後にモニタリングを行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の様子を分かりやすく記録し、職員間での申し送りは毎日詳しく行っている。新しい気づきや工夫の実践結果等、その都度話し合い、今後の実践や介護計画の見直しに活かすよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に合わせて、デイサービスやケアハウスなどを訪問したり、来ていただき一緒に食事をしたり、利用者の身体状態に合わせて併設施設の特殊浴層を利用する等、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回、地域の福祉ママと一緒におやつ作りをしたり、屋外でお茶やお菓子をいただき歌を歌って楽しんだり、散歩に出かけて買い物をしたりしている。地域の保育所・小学校児童の訪問もあり、協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医師、医院での適切な医療を受けられるよう、連絡調整を行っている。	嘱託医の診察がいつでも受けられるが、家族の協力があれば他の医療機関の受診も可能である。定期受診の時には、変化がなければ家族への報告はしていないが、医療ノートを作成し、誰でも受診状況が確認できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所なので、毎日看護師に利用者の状態報告をし、日常の健康管理、医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には病院関係者から状態報告を受けるとともに、病院に行き、利用者の状態を把握するよう努めている。また、主治医には利用者の毎日の状態報告をし、指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について説明し、アンケートで事前にご意見やご要望をお伺いしている。終末期には、再度確認して、より良いサービスができるようチームで支援に取り組んでいる。	重度化により特別養護老人ホームや病院へ移行しているため、今まで看取りの例はないが、希望があれば可能である。研修委員会で「看取り」の研修を受講している。隣接の特別養護老人ホームの看護師や嘱託医の協力は得られる体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームの職員が、定期的に急変時・事故発生時の対応の研修を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて、定期的に避難訓練を行っている。また、運営推進協議会では、災害についての話し合いをし、地域の方に協力・支援をお願いしている。	年4回避難訓練を実施している。ハザードマップにより危険箇所の把握もできている。事業所裏山が崩れる危険性を考慮し、中腹に広場を作り防止策を講じている。運営推進会議では防災をテーマにした話し合いをし、地域住民の協力体制にも力を入れている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴をよく知り、その方にあった言葉かけをするよう心がけている。職員全員で気づいた時にはその都度確認し、プライバシー確保に努めている。	入居者は現在、女性のみであるが、希望者には同性介助を心がけている。馴染みの関係になっているが、尊厳を傷つけないように利用者に合わせた言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・着替え・食事・飲み物・睡眠・行事参加等において、利用者の自己決定を促すような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や希望を取り入れながら、その方にあったペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、外出時などに自分で服を選んでいただいたり、整髪したり、クリームを塗っていただいたりしている。おしゃれの雑誌を一緒に読んで話をする等、楽しい時間を作るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。座っていてもできることを、職員と一緒に楽しく行っている。食事も話をしながら一緒に食べている。	副食は隣接施設の厨房で一括して作っているが、主食の炊飯と副食の盛りつけは事業所内で行っている。能力に合わせて下膳や食器洗浄などを行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量をチェックしている。摂取量の少ない方や偏食の方には、本人や家族に好物を尋ね補ったり、補助食品などを利用している。水分も小まめに摂取できるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声かけをして歯磨きやうがいをしていただいたり、義歯の洗浄を行っている。自力でできない方にはガーゼで拭く等、清潔を保つことができるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成し、排泄のリズムを把握して、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表をもとにトイレ誘導し、できるだけトイレでの排泄を目指している。夜間は全員の動きが見えるホールで職員が待機し、トイレ移動の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には、食物繊維などを摂取していただき、排泄がスムーズにできるよう支援している。毎朝の体操やボール投げで体を動かし、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は行っていないが、日中いつでも入浴できる環境を整え、利用者の希望に合わせてゆったりと入浴できるよう支援している。	事業所内にある普通浴の利用は、希望により日中いつでも入浴可能である。車椅子浴・特殊浴は隣接する特別養護老人ホームでの入浴となるため、決められた曜日・時間に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣・年齢・心身の状態に合わせて休息できるよう支援している。夜間安心してぐっすり眠れるよう、日中散歩や体操したり、居室の明るさを本人の希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬管理表を作成し、職員が常に把握できるようにしている。症状の変化があれば、看護師に報告し、申し送りで職員全員が情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算の得意な方、歌の得意な方、ボール投げの得意な方等、それぞれの得意なことを教えていただき、職員と一緒に楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭先に出て日光浴をしたり、お茶を飲んだり、季節の花を見たり、その日の利用者の状態に合わせて支援している。職員と一緒に散歩や買物に行ったり、家族や地域のボランティアの方と協力しながら出かけられるよう支援している。	独歩可能な利用者は、職員とともに近くのコンビニエンスストア等へ出かけている。立地が急な坂の上であるため、車いすでの外出は困難で危険なため、定期的な外出支援ができにくい。花見等の年間行事は隣接する特別養護老人ホームの協力もあり、全員参加している。	複数の施設の一角にあり、最も地域と離れた坂の上に事業所が位置している。ほぼ一日中事業所内で過ごす利用者にとって、外出は大きな楽しみという声も直に聞こえてきた。難しい環境にはあるが、車いす利用者にも外出の機会を多く持てるように、家族や地域の力を借りる等の工夫を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金の所持は行っていないが、買物に出かけたときは、レジでの支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話を利用できるよう支援している。手紙や葉書を自分で書くことができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには、四季を感じることができるよう飾り付けをしたり、利用者に生けていただいた花や絵を飾っている。居心地よく過ごしていただけるよう、温度調節や臭いなどに気を配り支援している。	ホールを囲むように居室があり、部屋を出れば皆が集っている空間がある。ホール内は飾り付けをして、明るい雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にサンルームがあり、家族と一緒に過ごしていただいたり、一人でゆっくり外を眺めることもできる。ホールの一角にソファを置き、気の合った利用者同士でお茶を飲んだり、話をしたり、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談して、使い慣れた道具を持って来ていただいたり、家族の写真を居室に貼って、居心地よく生活していただけるよう支援している。	居室内はクローゼットと洗面所が設置されているが、自分の家具を持ち込んだり畳の使用も可能である。湯飲みや箸は希望により、馴染みのものを使用している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには手すりを付け、ホーム全体がバリアフリーになっている。トイレ・浴槽にも手すりを付け、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ自立した生活を送ることができるよう支援している。		